

#14

サッカー好きおじさん／東部ブロック

背番号14と聞いてピンと来る人は、50歳以上のサッカー好きだと思われます。

オランダのレジェンド、ヨハン・クライフの有名な名言「美しく勝利せよ」。

スペクタクルで質の高い試合内容で、且つ、勝利も追及する。選手としても監督としても成功をおさめた数少ない一人です。

このコロナ禍の最中、本棚の飾りになっている過去に読んだ本を読み返すことが多くなりました。その中で改めて印象に残ったのが「ヨハン・クライフ」に関する本でした。

ヨーロッパの小国オランダをサッカー強豪国に押し上げ、現在のバルセロナやスペイン代表の礎をつくったといっても過言ではありません。「キャプテン翼」に登場する三杉君が背番号14だったのも、クライフからきているというのは有名なお話です。オランダ代表は、1970年代にすでに現在あたりまえである、攻撃的な戦術、プレッシングといったものを取り入れていません。当時の監督であったリヌス・ミケルスによりチームとクライフは輝きを放ちました。もしかしたら監督としてはリヌス・ミケルスのほうが優れていたかもしれません。

クライフは、選手時代から監督目線でチームを見ていたそうです。そうした視点がのちに指導者となったときに生きているのだと思います。

私自身、クライフの選手時代はリアルタイムではありません。監督時代を少し知っている程度で、後から情報が入ってきた口なので偉そうなことは言えませんが、魅力を感じずにはられません。協会やクラブにも物申す、卓越した個人技、自身の強い信念のもとサッカーを探求し続ける、サッカーに携わり続けた人生。

現在も魅力的な選手はたくさんいますが、指導者としても名声を得て後世に語り継がれていくような人が、今後何人現れるでしょうか。

テレワーク助成

星野浩二／中部ブロック

新型コロナウイルスの感染症の拡大でテレワークを始めとした新しいライフスタイルが浸透しつつある。東京一極集中が解消され都市から地方への移住や二地域居住が促進されるとともに、育児や介護と仕事が両立でき女性の社会進出が進むなど、テレワークは社会に大きな変化（チャンス）をもたらす可能性がある。テレワークには在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス勤務の3つの働き方があるが、住宅を設計する上で問題となるのは在宅勤務である。

在宅勤務によるテレワークは、多様で柔軟な働き方の確保や通勤時間の短縮などのメリットがある一方で、オンオフの切り替えが難しい、家事や育児で仕事に集中できない、仕事専用のスペースがないなど、テレワークを始めた人の多くが不満を感じている。そうすると、導入のメリットを最大化しつつ、課題を解消する検討が必要で、そこに職住融合の住まい方に対する工夫が求められる。

まずは**テレワークスペースの確保**である。子供の休校などで、食卓や寝室、さらにベランダやクローゼットで仕事をした人が多くいる。であれば、家事や育児との両立のためキッチン横などに作業台を設置、独立性を高めるため納戸をテレワーク専用スペースに模様替え、WEB会議に対応したスクリーンの設置が必要になる。次に、**長時間の在宅からくる住環境に対する不満への解消**として、二重窓の設置等遮音性・防音性や省エネ性能の確保、庭などの外部空間との融合や、内装の木質化等による安らぎや癒しの空間づくりなどがある。その他に**家事負担の軽減**として食器洗い機や浴室乾燥機を設置する、**感染予防対策**として玄関に手洗い器の設置、壁の仕上げを抗菌仕様に変える、十分な換気対策、宅配時の接触を防ぐ宅配ボックスの設置などが考えられる。

さて、県では既存住宅のテレワークスペースの確保に合わせて、新しいライフスタイルに適した改修に対する助成制度を検討しており、今年の12月頃からの運用開始を目指している。建築士の皆さんも、ウィズコロナ・アフターコロナ時代における変化を見据え、住生活を再考し、顧客の新たなニーズに的確な対応をお願いします。